

# 生田に国際交流会館完成

# ニッポス専修

http://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行  
(定価一部90円)  
発行所  
専修大学広報課  
〒101-8425 東京都千代田区  
東神田神保町3-8  
☎03-3265-5819(直)

## 主なニュース

- 学校法人専修大学2013年度決算概要……………2
- 佐藤雅幸、久木留毅両教授が「スマートテニスセンサー」開発に協力……………4
- 石巻専修大学特集……………5
- 春期日本語・日本事情プログラムのカルガリー大学生、文学部の学生と交流/長期交換留学生(第2期)決定/バドミントン部、奄美で地域貢献……………8
- 育友会定期総会・新会長に高野雅夫氏……………9

**学校をつくらう**  
創立者4人の青春物語  
DVD絶賛販売中(購買会他)

## 体験授業フェア

6/22 SUN.  
10:00 ~ 14:10

生田キャンパス  
申し込み不要

- Contents
- 分野別授業
  - 経済系3学部の違いについて
  - 大学紹介
  - 学部紹介DVD上映
  - 総合相談
  - 在学生によるイベント
  - 資料配布
  - キャンパス見学(自由見学)

入学センターインフォメーション  
(生田キャンパス) TEL03-3265-6677  
(生田キャンパス) TEL044-911-0794

## グローバルな人材育成を推進



▲ 生田キャンパスに隣接する国際交流会館

国際交流の拠点として、グローバルな人材を育成する教育寮としての機能をもち「専修大学国際交流会館」が、生田キャンパス10号館前に完成した。開館した6月1日には春期日本語・日本事情プログラム(5月9日~6月7日)参加者や、「GO Tokyo」プログラム(6月1日~16日)で来日した米国サスケハナ大学生ら53人が入居し、活気に包まれた。日本人学生にとっても、留学生と共同生活をしながら語学や国際感覚を磨く「寮内留学」の舞台となり、9面に関連記事。

「和」を基調とした建物を延べ床面積4140坪でつなぐ構造で、機能的で広いキッチンやダイニングを中央にはさまる1、2階の吹き抜けや大きく緩やかな階段などが開放感を生む。2人部屋が基本の留学生の居室は1~3階に計50室。また、これとは別にバリアフリー対応の1廊下の各所にあるラウンジや防音対策を施したレクリエーションルーム(娯楽室)、落ち着いて勉強できるスタディールームなど、居室以外の居場所には事欠かない。住宅に囲まれ、窓と窓が向き合う難点をユニークな意匠でカバーする。外壁を5色に塗り分け、窓は異なるサイズでリズムカルに配置。単調な印象を破り、目線が1カ所にとどまらないように工夫した。落ち着いた色合いの外観は周囲によく馴染む。

4階に海外からの客員教授や研究者用のゲストルーム6室、教職員が宿泊できる3室を備える。収容人員は100人以上で旧留学生寮(国際研修館)の倍になった。短期留学生用の居室(38室)は15平方メートル。大林守国際交流センター長は「居室はほぼどの広さにし、共用スペースで学生がどんな交流するような仕掛けにした」と明かす。廊下の各所にあるラウンジや防音対策を施したレクリエーションルーム(娯楽室)、落ち着いて勉強できるスタディールームなど、居室以外の居場所には事欠かない。住宅に囲まれ、窓と窓が向き合う難点をユニークな意匠でカバーする。外壁を5色に塗り分け、窓は異なるサイズでリズムカルに配置。単調な印象を破り、目線が1カ所にとどまらないように工夫した。落ち着いた色合いの外観は周囲によく馴染む。

国際研修館から引越したRA(レジデント・アシスタント)の山中隆太郎さん(商3)は「住15人(予定)が半年間、み心地は抜群です」と笑顔をみせる。留学生と起居を共にする「寮内留学プログラム」がスタートする。エディンバラ・ロー教授は「和風建築が素晴らしい。柱に各国の挨拶の言葉が書かれていて感激しました。」



▲ 写真お「Guten Tag」(ドイツ語)  
柱には24の言語で「こんにちは」  
▲ オーストラリア類完備の「娯楽室」

▲ 日高理事長から特別功労賞を授与される山田長満氏(左)



▶ 開放感あふれる広々としたダイニングで

国際交流協定校である米国サスケハナ大学(ペンシルバニア州)の学生を対象に、新規受け入れプログラム「GO Tokyoプログラム」が今年度から開設され、留学生17人、引率者4人の計21人が来日。6月1日から16日間、国際交流会館に滞在しながら、日本文化に親しんだ。

## サスケハナ大学から17人初の「GO Tokyoプログラム」

0人以上の専大生がサスケハナ大に留学したのに対し、日本語学科がない同大からの留学生はわずかに3人。双方の交流関係を築こうと本プログラムが企画された。「日本への関心は予想以上。来年以降、専大との交流が継続されることを願っています」と引率のエディンバラ・ロー教授は話す。一行は上野、浅草、築地市場を散策したり、鎌倉や箱根をフィールドトリップ。本学の剣道部や相撲部屋も訪れ、幅広く「日本」を満喫。最後に富士山中湖セミナーハウスで文学部のジェフリーC・フリックマン准教授のゼミ生15人と2泊3日の合宿ゼミを行った。



▲ 留学生の居室は2人部屋。くつろぐサスケハナ大学生



▲ 日高理事長から特別功労賞を授与される山田長満氏(左)

席上、29年にわたり本学の国際交流に寄与された山田長満氏(川崎商工会議所会頭)に専修大学特別功労賞が授与された。同賞の授与は盧中庸氏(昭23専政、校友会顧問)に続き2人目。日高理事長は「留学生と日本人学生の交流の機会をつくり、留学生に奨学金を支給されるなど長年ご尽力いただいた」と山田氏を紹介。館内の多目的ホールに同氏の名前を冠したことを報告した。山田氏は感激の表情で「多摩区に住み、地元で専大で学ぶ留学生を応援したくてお手伝いしてきた。学生さんにはここで交流を深め、世界に羽ばたいてほしい」と語った。

川崎市長が  
祝辞 落成式  
5月15日に生田キャン